

第3回 東アジア日本研究者協議会国際学術大会のご案内

東アジア日本研究者協議会は、2016年に創設された、日本・中国・台湾・韓国を拠点とする日本研究者が集う国際的な学術交流組織です。東アジアの日本研究者有志が約10年間にわたり毎年開催してきた国際的・学際的な研究会、東アジア日本研究フォーラムの取り組みから生まれました。東アジア日本研究者協議会は、東アジア各国・地域の日本研究者12人によって運営委員会を組織し、2016年は韓国・仁川、2017年は中国・天津で国際学術大会を開催し、それぞれ300人にのぼる参加者が研究発表と討論を行いました。

3回目となる本年の大会は京都で開催されます。東アジア日本研究フォーラムから受け継がれてきた東アジアにまたがる日本研究の交流をさらに進めるとともに、日本での開催により、日本に拠点を置く多くの研究者の参加を期待しています。また、これまでの2回の大会同様、大学院生や若手研究者の発表を積極的に支援したいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 概要

主催：東アジア日本研究者協議会・国際日本文化研究センター

共催：国際交流基金（予定）

日程：2018年10月26—28日

会場：国際日本文化研究センター <http://www.nichibun.ac.jp/>

京都リサーチパーク <https://www.krp.co.jp/access/>

使用言語：発表言語、発表要旨、論文等は原則として日本語とします。

ただし、発表時にその他の言語を希望する場合は自身で通訳を手配すればその限りではありません。

参加費：未定、決まり次第公表いたします。（ただし、資料代・食事代を含む）

交通費、宿泊費：自己負担

参加の申込み方法や大会の詳細について以下の東アジア日本研究者協議会第3回国際学術会議ホームページ <http://eacis.rspace.nichibun.ac.jp/>を御覧ください。

2. 募集要項

(1) テーマについて

下記のテーマに沿った発表要旨(800字以内)を提出し、パネルを構成して参加するか個人で参加するようお願いいたします。

東アジアにおける日本の位置の変容
国民国家論以降の日本研究

「世界文学」のなかの日本文学
デジタル・ヒューマニティーズ

| | |
|-------------------|-------------------|
| マイノリティの民俗学 | 東アジアにおけるジェンダー |
| 東アジアにおける誕生と死の近代 | 東アジアの王権と主権 |
| 東アジアにおける人・物の移動と表象 | 東アジアにおける諸宗教の交流 |
| トランスナショナルな美術交流史 | 聖地の構築過程 |
| 東アジアのなかの明治維新 | 帝国日本の支配と植民地社会の変容 |
| 日本研究と日本語教育 | 東アジアにおける歴史認識問題 |
| 北東アジアの高齢化問題・福祉問題 | 東アジアにおける政治とポピュリズム |

註：上記のテーマはあくまで例示であり、これ以外のテーマを排除するものではありません。参加者は上記のテーマを参考に、サブテーマを設定の上、発表要旨を提出してください。

(2) パネル及び個人参加について

① パネル

- ・各パネルは基本的に司会・発表者・討論者で構成し、合計4～7名とします。ただし、司会が発表者・討論者を兼ねてもかまいません。1パネルの発表時間は合計1時間30分とします。
- ・共同パネルは参加団体・機関が自由にパネルを構成するものです。パネルの運営、経費(交通費・宿泊費・参加費・謝礼など)は自己負担とし、会議資料の作成もパネルですべて責任をもって行うものとします。
- ・学术交流という本協議会の趣旨を生かすため、各パネルのメンバーは、複数の国・地域の研究者で構成してください。ジェンダーバランスにも配慮してください。

② 個人参加

- ・個人参加の発表者の場合、提出された発表要旨の内容を組織委員会が考慮し、適切なパネルを構成します。発表者に対しては、発表以外に、パネルの司会あるいは討論者を依頼する場合があります。
- ・経費(交通費・宿泊費・参加費・謝礼など)は自己負担とし、会議資料の作成も発表者がすべて責任をもって行うものとします。

③ 次世代パネル

※詳細は別紙をご覧ください。

(3) 申込方法

パネルまたは個人参加により発表を希望される方は、ホームページ上で申込み手続きを行ってください(他の方法による申込みは受け付けません)。

※発表希望パネル・個人の応募が多数の場合は、国際日本文化研究センター等の研究機関の研究者によって構成される審査委員会で採否を決定します。

採択者は、2018年8月31日（金）に東アジア日本研究者協議会第3回国際学術会議のホームページにて周知します。

※詳細な申込手順については、決まり次第公表いたします。

（4）申込期限

発表要旨提出締切：2018年7月31日（火）

参加申込締切：2018年9月30日（日）

※ビザの手続きが必要な方については、参加申込締切日に関わらず、早めの申込みをお願いします。ビザ発行のための招待状はお送りさせていただきます。

その他、ご不明の点は下記までお問い合わせください。

国際日本文化研究センター・研究協力課

Eメール：info_eacjs@nichibun.ac.jp

電話：075-335-2044

fax：075-335-2092

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター
東アジア日本研究者協議会
第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会実行委員会

各位

東アジア日本研究者協議会国際学術大会組織委員会
国際日本文化研究センター

東アジア日本研究者協議会第3回国際学術会議

「次世代（博士後期課程院生及び若手研究者）パネル」発表者の募集について

東アジア日本研究者協議会は、2016年に創設された、日本・中国・台湾・韓国を拠点とする日本研究者が集う国際的な学術交流組織です。東アジアの日本研究者有志が約10年間にわたり毎年開催してきた国際的・学際的な研究会、東アジア日本研究フォーラムの取り組みから生まれました。東アジア日本研究者協議会は、東アジア各国・地域の日本研究者12人によって運営委員会を組織し、2016年は韓国・仁川、2017年は中国・天津で国際学術大会を開催し、それぞれ300人にのぼる参加者が研究発表と討論を行いました。

3回目となる本年の大会は京都で開催されます。東アジア日本研究フォーラムから受け継がれてきた東アジアにまたがる日本研究の交流をさらに進めるとともに、日本での開催により、日本に拠点を置く多くの研究者の参加を期待しています。また、次世代研究者の育成を通じた東アジアでの日本研究の長期的な発展を期し、これまでの2回の大会同様、大学院生や若手研究者の発表を積極的に支援します。つきましては、下記のとおり発表者を募集しますので、皆様のご参加を期待いたします。

記

1. 応募資格：日本・中国・台湾・韓国に居住する大学院博士後期課程に在籍する学生及び学位取得予定者またはポスドクの研究者。
※ただし、日本居住者については、参加特典（8.参照）は適用されません。
2. 参加方法：通常のパネルに準じ、原則としてパネルを組んで発表するものとします。学術交流という本協議会の趣旨を生かすため、複数の国・地域の研究者で構成してください。
3. 提出書類：①発表要旨（800字以内、日本語のみ）
②推薦書（1通。所属大学または出身大学の教員が日本語または英語で作成するものとする）
4. 書類提出の期限：2018年7月31日（火）（必着）
5. 書類提出の方法：HP上で提出※詳細な提出方法は、決まり次第公表いたします。
6. 募集人数：約30名
7. 選考方法：審査委員会が地域・年齢などを考慮して選抜します。また、大学院在籍中の学生を優先します。
8. 参加特典：参加費を免除、往復航空費、宿泊費（2泊3日）などの関連費用を支援します。宿泊先のホテルは事務局が手配いたします。
9. 採択者発表：2018年8月31日（金）。東アジア日本研究者協議会第3回国際学術会議のホームページにて周知します。
10. 問い合わせ先：国際日本文化研究センター・研究協力課

E-mail：info_eacjs@nichibun.ac.jp

電話：日本 075 - 335 - 2044

第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会組織委員会・事務局